

免疫血清分野

尿一般分野

病理分野

細胞診分野

血液一般分野

生化学分野

先天性代謝異常分野

微生物分野

病理組織検査の受付から報告まで

検査科 病理・細胞診係（病理担当）

はじめに

当検査センター病理係では、医療機関より提出していただいた組織検体からスライド標本作製を行い、病理診断医の先生方に病理診断をお願いしています。今回は検体受付から標本作製、診断・報告までの工程をご紹介します。

病理組織検査の工程

病理組織検査は、患者の病変部より採取された組織検体からスライド標本作製し、その後病理診断医が検鏡・診断を行っています。

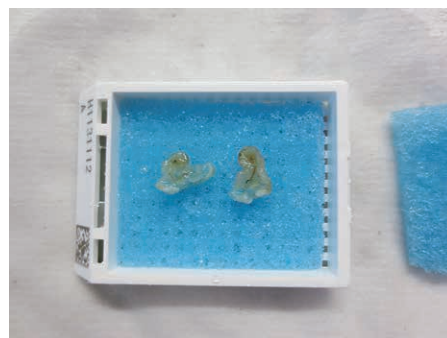
当検査センターでは、検体受付から病理検査報告書発送までを最短 5 日で行っています。

1 日目…検体受付

医療機関から提出されたホルマリン固定後の検体を、標本作製に適切な大きさ、形になるように切り出し処理を行います。その後パラフィン浸透装置で組織にパラフィン浸透を行います。



検体処理



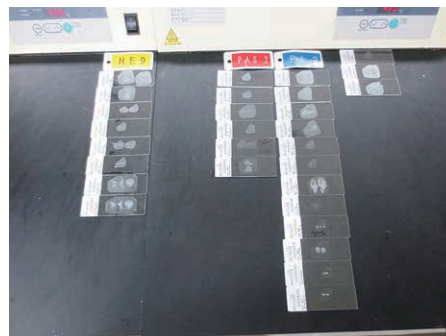
大腸の EMR のスライス

2 日目…包埋・薄切・染色

包埋…組織を薄切するためにパラフィンプロックを作製します。



薄切…パラフィンプロックの組織を3～4 μ 程度の薄さに切り、スライドに貼り付けます。



染色…作製したスライドにHE染色を行います。

3日目…検鏡・診断

病理診断医が検鏡・診断を行います。

(診断に必要な場合、追加で深切り標本作製や免疫染色のオーダーが出ます。)



4日目…病理検査報告書作成・病理医チェック

病理検査報告書を作成し、病理診断医がチェックを行います。

5日目…病理検査報告書発送

各医療機関に病理検査報告書を発送します。

おわりに

病理係では、病理診断医が正確な診断を行えるよう良質な標本作製を心掛けております。標本作製や診断に時間のかかる場合もありますので、結果のお問い合わせや進捗状況の確認などご不明な点があれば、遠慮なくお問い合わせください。

担当：渡川 美弥子（病理・細胞診係）
監修：大上 直秀 先生（広島大学大学院 医系科学研究科 分子病理学 教授）

*ウェブサイトでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>